2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月13日

上場会社名　　株式会社ハイパー　　上場取引所　東
コード番号　　3054　　ＵＲＬ　https://www.hyperpc.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長 CEO　　（氏名）望月　真貴子
問合せ先責任者　（役職名）取締役 CFO　　（氏名）田邉　浩明　　ＴＥＬ　03-6855-8180

配当支払開始予定日　　－
決算補足説明資料作成の有無：　無
決算説明会開催の有無　　：　無

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	10,058	△6.5	278	△18.2	280	△18.8	257	△8.4
2025年12月期第３四半期	10,754	16.6	340	85.0	345	121.7	281	226.7

（注）包括利益　2026年12月期第３四半期　258百万円（△3.9%）　2025年12月期第３四半期　268百万円（206.8%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	26.69	-
2025年12月期第３四半期	29.20	29.07

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年12月期第３四半期	7,365	3,253	43.9	334.48
2025年12月期	6,870	3,071	44.3	314.87

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　3,233百万円　2025年12月期　3,040百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	－	3.50	－	3.50	7.00
2026年12月期	－	3.50	－		
2026年12月期（予想）				3.50	7.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,000	△12.9	270	△15.6	265	△18.9	240	△0.3	24.84

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：　無
　　新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：	無
②　①以外の会計方針の変更	：	無
③　会計上の見積りの変更	：	無
④　修正再表示	：	無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	9,889,500株	2025年12月期	9,878,100株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	221,308株	2025年12月期	221,308株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	9,663,223株	2025年12月期３Ｑ	9,647,621株

（注）期末自己株式数には、「三井住友信託銀行株式会社（信託口）（再信託受託者：株式会社日本カストディ銀行（信託口））」が保有する当社株式118,900株が含まれております。また、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料３ページ「１．経営成績等の概況　（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当四半期の経営成績の概況 …… 2
（２）当四半期の財政状態の概況 …… 2
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期連結貸借対照表 …… 4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（会計方針の変更に関する注記） …… 8
（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 10

１．経営成績等の概況

（１）当四半期の経営成績の概況

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。企業の設備投資は、人手不足への対応を目的とした省人化・省力化投資や更新投資等を背景に、堅調に推移しました。特にIT投資については、企業のデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進、セキュリティ対策及び生成AIの活用に対する需要が継続しました。

このような経済環境のもと、当社グループにおきましては、「人とITで日本の会社を元気に」をミッションに掲げ、顧客開拓と関係強化、ストックビジネスの強化、ソリューション営業の強化、セキュリティ関連サービス及びAI関連サービスの拡販、子会社との相乗効果の最大化などに注力してまいりました。また、業務プロセスの効率化を推進し、収益力の向上に努めてまいりました。

当第３四半期連結累計期間においては、前年同期に発生したWindows 10サポート終了を見据えたPC更新需要の反動や、アスクルエージェント事業におけるシステム障害発生後の顧客基盤の回復が途上であること等により、前年同期比では減収減益となりました。一方で、企業におけるセキュリティ対策需要及びAI関連サービスへの需要が継続したことに加え、ITサービス事業における需給環境を見据えた独自の在庫戦略が奏功し、PC端末販売は当初想定を上回って推移いたしました。また、アスクルエージェント事業においても、中堅・大企業向けの取扱高を中心に回復の動きが見られました。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は10,058,234千円（前年同期比6.5％減）、経常利益は280,335千円（前年同期比18.8％減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は257,957千円（前年同期比8.4％減）となり、前年同期を下回る結果となりました。

①　ＩＴサービス事業

ITサービス事業においては、企業のDX推進、セキュリティ対策及び生成AIの活用を目的とした投資需要が継続しました。また、人手不足を背景とした業務効率化投資や、老朽化したシステムの刷新に対する需要も底堅く推移しました。

このような環境のもと、当社グループでは、企業のIT部門が直面する課題を解決するため、PCやサーバーの調達、設置、設定、セキュリティ対策及び運用管理を支援する情報システムサービスを「ビジネスコアネクスト」として展開し、拡販に注力してまいりました。

当期間は、前年同期に発生したWindows 10サポート終了を見据えたPC更新需要の反動や、部材価格の上昇に伴うPC端末価格の高騰が続きました。一方で、セキュリティ関連商材及びAI関連サービスの販売が堅調に推移したことに加え、需給環境を見据えた独自の在庫戦略が奏功し、PC端末販売は当初想定を上回って推移いたしました。しかしながら、前年同期の特需の反動を補うには至らず、売上高及び営業利益は前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、売上高は9,070,490千円（前年同期比5.9％減）、営業利益は160,237千円（前年同期比15.2％減）となりました。

②　アスクルエージェント事業

アスクルエージェント事業においては、2025年10月にアスクル株式会社を標的としたランサムウェア攻撃によるシステム障害が発生し、Webサイト等からの注文受付が一時的に停止したことにより、当社の事業活動に影響が生じました。2026年２月には、主要なECサービス機能はシステム障害発生前の水準まで復旧しております。

このような状況を踏まえ、業績回復の基盤となる顧客数の回復及び取引の活性化を目的として、価格施策を含む販売促進活動や、既存顧客に対する利用促進を中心とした営業活動を継続してまいりました。

これらの取り組みにより、中堅・大企業向けの取扱高を中心に回復の動きが見られたものの、中小事業所を中心とした顧客数については、引き続き回復途上にあります。また、顧客の回帰及び取扱高の回復を優先した価格施策の影響により、売上総利益率は前年同期を下回りました。その結果、売上高及び営業利益は前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、売上高は921,111千円（前年同期比13.8％減）、営業利益は118,894千円（前年同期比21.6％減）となりました。

③　その他

その他の事業では、就労移行支援事業を運営しており、一般企業への就職を目指す障害のある方を対象に、職業訓練及び就労支援に関するサービスを提供しております。

当期間は、ハローワーク、相談支援事業所及び地域の関係機関に対する周知活動に加え、SNS等を活用した集客活動を継続し、事業所の認知拡大及び利用者数の確保に努めてまいりました。これらの取り組みにより売上高は前年同期を上回りました。一方で、新オフィスの開設に伴う運営費等の増加により、営業損失となりました。

以上の結果、売上高は66,631千円（前年同期比31.6％増）、営業損失は898千円（前年同期は493千円の営業損失）となりました。

（注）各セグメントの売上高は、セグメント間の内部取引を除いた金額を記載しております。

（２）当四半期の財政状態の概況

(総資産)

当第３四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べて495,908千円増加し、7,365,938千円となりました。

流動資産の残高は6,795,888千円となり、前連結会計年度末と比べ457,480千円の増加となりました。これは主に「現金及び預金」が減少したものの「受取手形及び売掛金」及び「商品」が増加したことによるものです。

固定資産の残高は570,049千円となり、前連結会計年度末と比べ38,427千円の増加となりました。これは主に「無形固定資産」が減少したものの「投資有価証券」が増加したことによるものです。

(負債)

当第３四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べて313,648千円増加し、4,112,113千円となりました。

流動負債の残高は3,645,767千円となり、前連結会計年度末と比べ427,222千円の増加となりました。これは主に「買掛金」が増加したことによるものです。

固定負債の残高は466,345千円となり、前連結会計年度末と比べ113,573千円の減少となりました。これは主に「長期借入金」が減少したことによるものです。

(純資産)

当第３四半期連結会計期間末における純資産は、「利益剰余金」の増加等により、前連結会計年度末と比べ182,259千円増加し、3,253,824千円となりました。この結果、自己資本比率は43.9％となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く事業環境は、企業のDX推進、セキュリティ対策及び生成AIの活用等を背景に、IT投資需要が引き続き底堅く推移することが期待されます。一方で、PC端末及び部材価格の上昇、為替相場の変動、国内物価及び物流費の動向等については、引き続き注視が必要であると認識しております。

当第３四半期連結累計期間までの業績は、前年同期に発生したPC更新需要の反動及びアスクルエージェント事業におけるシステム障害の影響を受け、前年同期比では減収減益となりました。一方で、企業におけるセキュリティ対策需要及びAI関連サービスへの需要が継続したことに加え、ITサービス事業における独自の在庫戦略が奏功し、PC端末販売は当初想定を上回って推移いたしました。また、アスクルエージェント事業においても、中堅・大企業向けの取扱高を中心に回復の動きが見られました。

2026年12月期の通期連結業績予想につきましては、当第３四半期連結累計期間における各利益が、2026年７月28日に公表した通期連結業績予想を既に上回っております。現時点では通期連結業績予想を据え置いておりますが、PC端末価格及び売上総利益率の動向、アスクルエージェント事業における顧客基盤の回復状況等を踏まえ、今後、業績予想の修正が必要と判断した場合には、速やかに公表いたします。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2025年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,107,262	1,980,604
受取手形及び売掛金	2,135,725	3,170,965
電子記録債権	197,936	144,219
商品	652,893	1,158,526
仕掛品	135,916	191,740
その他	113,667	156,932
貸倒引当金	△4,995	△7,100
流動資産合計	6,338,407	6,795,888
固定資産		
有形固定資産	44,736	43,646
無形固定資産		
のれん	46,880	32,278
その他	160,694	94,687
無形固定資産合計	207,575	126,965
投資その他の資産		
投資有価証券	16,872	116,912
繰延税金資産	108,107	125,494
その他	172,168	175,299
貸倒引当金	△17,838	△18,269
投資その他の資産合計	279,310	399,437
固定資産合計	531,622	570,049
資産合計	6,870,029	7,365,938
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,302,031	2,834,731
短期借入金	250,000	250,002
１年内返済予定の長期借入金	178,900	174,320
リース債務	13,297	8,890
未払法人税等	44,628	32,598
前受金	26,696	43,931
賞与引当金	95,518	81,768
その他	307,473	219,525
流動負債合計	3,218,545	3,645,767
固定負債		
長期借入金	349,230	216,480
リース債務	20,242	14,170
繰延税金負債	1,218	8
役員株式給付引当金	50,095	55,465
役員退職慰労引当金	72,327	91,762
退職給付に係る負債	45,006	47,391
資産除去債務	38,022	38,095
その他	3,777	2,971
固定負債合計	579,919	466,345
負債合計	3,798,464	4,112,113

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2025年12月31日）	当第３四半期連結会計期間 （2026年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	577,028	578,790
資本剰余金	574,956	576,717
利益剰余金	1,976,385	2,165,873
自己株式	△88,312	△88,312
株主資本合計	3,040,058	3,233,069
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	558	769
その他の包括利益累計額合計	558	769
新株予約権	30,948	19,986
純資産合計	3,071,565	3,253,824
負債純資産合計	6,870,029	7,365,938

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	10,754,010	10,058,234
売上原価	8,019,826	7,416,600
売上総利益	2,734,184	2,641,633
販売費及び一般管理費	2,394,009	2,363,399
営業利益	340,175	278,233
営業外収益		
受取利息	4,049	7,757
受取配当金	1,063	251
広告料収入	900	－
協賛金収入	1,942	1,966
その他	3,394	1,882
営業外収益合計	11,349	11,858
営業外費用		
支払利息	6,144	9,719
その他	258	36
営業外費用合計	6,402	9,756
経常利益	345,122	280,335
特別利益		
新株予約権戻入益	12,642	10,049
投資有価証券売却益	21,907	－
その他	－	34
特別利益合計	34,550	10,083
特別損失		
固定資産除却損	9,859	－
減損損失	8,010	－
特別損失合計	17,870	－
税金等調整前四半期純利益	361,801	290,419
法人税、住民税及び事業税	68,021	51,169
法人税等調整額	12,038	△18,707
法人税等合計	80,060	32,462
四半期純利益	281,741	257,957
親会社株主に帰属する四半期純利益	281,741	257,957

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
四半期純利益	281,741	257,957
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△12,999	210
その他の包括利益合計	△12,999	210
四半期包括利益	268,741	258,167
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	268,741	258,167

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更に関する注記）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	78,336千円	79,972千円
のれんの償却額	14,602	14,602

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　2025年１月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）２	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額（注）１
	ＩＴサービス事業	アスクルエージェント事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	9,634,953	1,068,408	10,703,361	50,649	10,754,010	－	10,754,010
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,922	580	2,503	－	2,503	△2,503	－
計	9,636,875	1,068,989	10,705,864	50,649	10,756,513	△2,503	10,754,010
セグメント利益又は損失（△）	188,936	151,732	340,668	△493	340,175	△0	340,175

（注）１．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

２．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業を含んでおります。

３．セグメント利益又は損失（△）の調整額△0千円は、主に報告セグメントに帰属しない本社費用であります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　2026年１月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			その他（注）２	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額（注）１
	ＩＴサービス事業	アスクルエージェント事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	9,070,490	921,111	9,991,602	66,631	10,058,234	－	10,058,234
セグメント間の内部売上高又は振替高	205	529	734	－	734	△734	－
計	9,070,696	921,640	9,992,337	66,631	10,058,969	△734	10,058,234
セグメント利益又は損失（△）	160,237	118,894	279,132	△898	278,233	－	278,233

（注）１．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

２．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、就労移行支援事業を含んでおります。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。